

和歌山大学学生自主創造支援部門（クリエ） クリエプロジェクト

<2025年度ミッション成果報告書>

プロジェクト名：和歌山大学放送プロジェクト「花綴 -はなつづり-」

ミッション名：和大発、学生放送団体の設立とその継続

ミッションメンバー：システム工学部3年山本柚葵，システム工学部1年齋藤亜衣，経済学部2年新出叶羽

キーワード：ラジオ放送，地域交流，学生間交流，話す技術，編集技術，社会人基礎力

1. 背景と目的

ここでは、ミッション計画当初の目的と目標について述べる。

本ミッションの目的は、"放送活動を通じて和歌山大学や近隣地域の交流に寄与すること"，"また社会に通ずる表現力や倫理観を持った学生を育成すること"であった。このために、学生が主体となって放送活動を行える場所を作ることが活動の本分である。

目標として、年度内に2種類以上の番組を配信することが掲げられていた。またその際、特に番組が定期配信であることと継続させることを重視し、視聴者の獲得と計画的な番組企画を目指した。そのほか、目安として2025年度9月ごろから放送活動を開催する予定であった。

2. 活動内容

当初示した到達目標は未達である。以下に、計画されていた活動のうち実行されたものについて記す。また次図は、成果報告会で用いた、計画の遅れの程度を示す図表である。



図1 計画の遅れの程度

2.1 勉強会の開催

発声に関する基礎知識，発話の練習，機材の取り扱いに関する勉強会を計5回開催した。計画では番組企画に関する会議も実施予定であったが，プロジェクト自体の遅れによって未実施となった。



図2 勉強会の様子

この5回の開催のうち2回は、福井工業高等専門学校 放送メディア研究会と合同で実施した。その際には、普段関わることのない人が同時に参加している特性を利用し、異なる学校の人の喋りについて評価するなどの活動も行なった。次に、この勉強会で得られた参加者の感想をいくつか示す。

- ・自分の癖を客観的に知ることができた
- ・息の吸い方がわかった
- ・知らない人の声を聞くのが新鮮だった
- ・もっと練習したいと思った

2.2 機材の購入

配分いただいた予算を用いて、マイク・ケーブル・インターフェースなどの機材を購入した。

また、現在公開している番組(後述)の初回を収録後、和歌山大学システム工学部西村竜一様にご協力いただき、配線を変更した。コンデンサマイクを2本使用できる環境となり、よりよい音質にて収録が可能となった。(但し、環境ノイズが入りやすくなるなど難易度が上昇する特徴もあるため、状況に応じて使用機材を変更予定。)



図3 当初の機材



図4 変更後の機材

2.3 番組の収録と公開

シリーズ「名称未設定」と称する番組を収録し、公開した。ミッション成果報告会の3月10日までに2回が投稿されている。

この番組は、実験的な番組として位置付け、企画を統一せずに収録している。例として、大学に関する話題、そうでない雑談、学生団体の代表を招いたインタビューなどを収録した。



図5 公開されている番組

2.4 SNSアカウントの開設

Instagram, Twitter(現X), Spotify, Youtubeのアカウントを開設した。前者2つは広報用, 後者2つは番組の投稿用である。

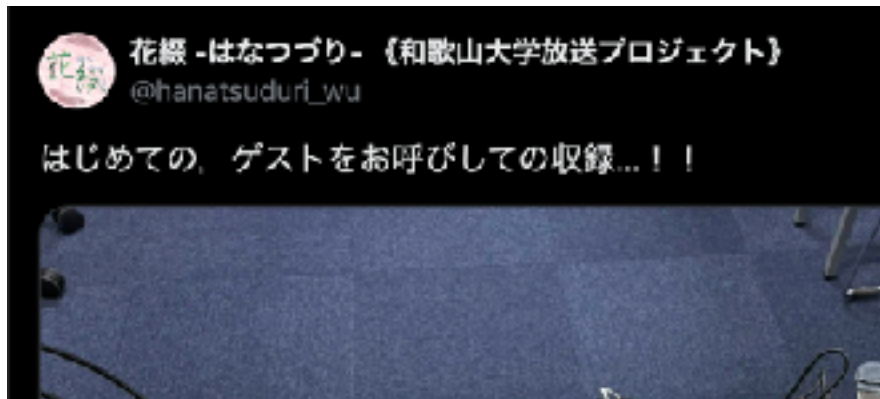


図6 SNS投稿の様子

3. 活動の成果や学んだこと

実際的な成果物は、先に挙げた番組と、これを収録・編集・公開する環境が作られたことに限られる。他方で、プロジェクトの遅れとその原因を考えれば、それに起因する反省点がいくつか挙げられる。

怪我等の外的要因を除けば、最も重大なのは当初揃っていた構成員の増減とモチベーション維持の失敗である。代表(筆者)はこれについて、必要とされる基準より軽んじていたように思える。しかしながら、必ずしも順調に進むとは限らないプロジェクトにおいて心情的な問題はその継続にとって大変重要であった。また、それは結果的に代表自身のモチベーションにも悪影響を及ぼした。

来年度の活動においては、認識の相違を減らすため、より十分なコミュニケーションが求められる。

4. 今後の展開

現状、来年度も活動を継続する予定である。しかしながらいくつか問題もある。

4.1 人員の不足

活動のある構成員の人数が現在大変に少なく、予定の噛み合い等の問題で安定的に活動を行うことができない。また、当初の目標のうちいくつかを達成するためには、より多い情報を効率的に取り入れる必要がある。

1年間の継続を前提とするためには、この人員の不足を埋める必要がある。

4.2 今後の番組

現在は前述した実験シリーズ「名称未設定」を製作中であるが、当初の目標で示していたような"学内のこと", "地域のこと"を伝える、企画がある程度統一され継続されるシリーズを製作したいと考えている。

5. まとめ

今年度実施したミッションとプロジェクト全体は、いずれも大きな失敗をした。実力不足を痛感するばかりである。

しかし、活動中や成果報告会の前後では温かいお言葉をいただくこともあった。大変ありがたい限りである。反省点を挙げれば数えられないが、全て考え直し、まずは来年度1年間の安定した活動を目指す所存である。